

リサウンド・アップ スマート

お子さんの言葉の 習得のために

保護者向けガイド



PEDIATRICS

ReSound





お子さんが装用している補聴器は、 周囲の環境音を増幅します。

お子さんが装用する補聴器は、安全かつ快適な音量で話し声を確実に聞き取れるようにすることを目的としています。

生後3歳までが、言葉の習得に重要な時期とされています。早期に聴覚刺激を与え、話し声や言葉に触れることが、この発達プロセスの鍵となります。

この冊子では、聞き取り、発話および言葉の発達を支援するための方法について、具体例および発達の目安をご紹介します。

お子さんとのコミュニケーション

子どもは、生まれたその日からコミュニケーションを開始します。

赤ちゃんとお母さんは、特別なつながりを通してコミュニケーションを図るという独自の方法を確立させます。お子さんの聞き取り能力にかかわらず、親子のコミュニケーションと交流はとても大切です。

お子さんと良好なコミュニケーションを図るために：

- お子さんに頻繁に話しかけましょう。はっきりとした口調で、通常の会話速度で近距離から話しかけます。
- たくさんのアイコンタクト、触れ合う、抱っこするなどのスキンシップは、お子さんが交流の仕方を学ぶのに役立ちます。
- 顔と顔を向かい合わせて会話することは誰にとっても良い効果をもたらしますが、特に子どもには有効です。お子さんは、耳から聞くことに加えて、あなたの口の動きや顔の表情を見て、言葉を学びます。
- お子さんと遊ぶ、声を出して物語を読む、音楽を聴く、その他の日常生活活動を一緒に行うなど、お子さんとの交流を通じて発話や言葉の発達を促します。





お子さんが補聴器で最大の効果を得るには？



音に十分に接することが、お子さんの発話と言葉の発達に不可欠です。

目を覚ましている時間は、お子さんにとって常に聞き取りと学びのよい機会となる可能性があります。補聴器や補聴支援機器は、音を確実にお子さんに届けることができるので、発話や言葉を学ぶ機会を更に生かすことができます。

お子さんが音を聞き取りやすくするためにできること。

- 周囲を取り巻く雑音の量も含め、お子さんの聞き取り環境を把握しておいてください。話し声を聞き取る能力は周囲の雑音によって悪影響を受けるため、雑音がある環境では聞き取りにくくなります。周囲の雑音はあらゆる種類の発生源から生じます。たとえば、テレビ、ラジオ、送風機、車のエンジン、他の人々の話し声などです。
- お子さんと話し手の距離をできる限り縮めてください。最も適した距離は1～2メートル以内です。お子さんに話しかけるときは、すぐそばで、子どもの目線と同じ高さになるようにしゃがみ、はっきりと明瞭に話してください。大きな声を出したり、遠くの人に呼びかけたりするような話し方をする必要はありません。遠くの人に呼びかけるような話し方をすると、かえって明瞭でなくなります。
- お子さんが別の方向を向いていたら、あなたがお子さんの正面に移動してください。
- お子さんが話しかけられた内容を聞き取っていない、または理解していない場合、もっと簡単な表現や異なる言い回しを使って別の言葉に言い換えます。身ぶり手ぶりをを使って、伝えたいことをわかりやすく表現しましょう。
- 周囲に雑音のある環境で話し言葉の可聴性を高めるために、マイクユナイト™やFMシステムなどの補聴支援機器の利用を検討してください。
- お子さんに、できるだけ補聴器をつけるよう勧めましょう。最も望ましいのは終日装用です。常に励まし、補聴器をつけることを褒めてあげましょう。





聞き取り、発話および 言葉の発達の目安

以下の表では、お子さんが生後0～6カ月、6～12カ月、1～2歳、2～3歳および3～4歳でできることの目安を紹介しています。これはあくまで目安にすぎません。子どもは、その子独自の時間軸で発達することが多いものです。*

0～6カ月

見込まれる言語能力	お子さんの言語発達を補助するためにできること
<ul style="list-style-type: none">• 大きな音にびっくりする。• 目的が異なれば（空腹、痛み、おむつ濡れ、あやして欲しいなど）、泣き方も異なる。• 快・不快を声に出して伝える。• 「あー」「うー」などの喃語を発する。	<ul style="list-style-type: none">• 赤ちゃんが喃語を発しているときに、同じ音を発して返事をする。• 授乳、着替え、抱っこ、添い寝、遊んでいるときに、赤ちゃんに話しかける。• 歌を歌う。• 音楽をかける。

見込まれる聞き取り能力	お子さんの聞き取り能力の発達を補助するためにできること
<ul style="list-style-type: none">• 馴染みのある声や音を認識して周囲を探し、それを聞き取ると静かになる。• 話し言葉と会話以外の音声とを区別することができる。• 音がする方向に顔を向ける。• 音の鳴るおもちゃや音楽の流れるおもちゃを見る。	<ul style="list-style-type: none">• お子さんに話しかけるときに、特別な声色を使う。• 周囲環境の音に注意を払い、音の発生源が何かを示す。

聞き取り、発話および言葉の発達の目安

6～12カ月

見込まれる言語能力	お子さんの言語発達を補助するためにできること
<ul style="list-style-type: none">• いくつかの馴染みのある物の名前を理解する。• 絵本に興味を示す。• 会話に耳を澄ます。• まるで話しているように表情豊かに喃語を発する。• 音節構造の喃語を発するようになる（「ダーダ」や「マーマ」など）。• 「だめ」や「バイバイ」を理解する。• 最初の言葉が出てくることもある	<ul style="list-style-type: none">• 赤ちゃんに自分の名前や馴染みのある物の名前を教える。• あなたが現在していることを説明してあげる（「ママは今ミルクを作っているところよ」など）。• 「いないいないばあ」をして遊ぶ。• お子さんを膝の上で抱っこし、雑誌や本に載っている絵や写真を見せる。• 単純な歌を歌う。

見込まれる聞き取り能力	お子さんの聞き取り能力の発達を補助するためにできること
<ul style="list-style-type: none">• 自分の名前に反応する。• 音に反応して顔を向ける。• 簡単な要求に対して反応を示し始める。	<ul style="list-style-type: none">• 音に注意を向ける（「ほら、犬の吠える声が聞こえる？」など）。• とても簡単な指示を出す（「車のおもちゃを持ってきてちょうだい」、「ここにおいで」など）。



1～2歳



見込まれる言語能力	お子さんの言語発達を補助するためにできること
<ul style="list-style-type: none"> • 多くの新しい言葉を真似て声に出す。 • 2語以上の言葉を話す。 • 文に聞こえるような音を発する。 • 車、飛行機、鳥などの馴染みのある音を真似る。 • 質問に対して1語で答える。 • 指差しや1語を発して自分の要求を伝えることができる。 • 自分の名前を使う。 • ある程度の音声模倣を使う（語句をそのまま何度も繰り返す）。 • おもちゃや馴染みのある物の名前を言う。 • 「バイバイ」「お靴」「ジュースもつと」など、2～3語の文を使う。 • 鼻歌などをしたり、単純な歌を歌おうとする。 • 10～20語を話す： 12～18カ月：3～10語 18～24カ月：10～100語 	<ul style="list-style-type: none"> • 人の名前、身体各部の名前、物の名前を教える。 • 人、花、家、動物などの馴染みのある物が鮮やかに描かれている絵本を毎日読み聞かせる。物の名前を言う。 • はっきりと簡単な言葉で話しかける。

見込まれる聞き取り能力	お子さんの聞き取り能力の発達を補助するためにできること
<ul style="list-style-type: none"> • 簡単な一動作の指示に従う。 • 音がするどの方向にも顔を向ける。 • 話している人を見る。 • 身体部位を尋ねられたときに指差すことができる。 • 簡単な物語、歌、詩に耳を傾ける。 • 多くの語を理解する： 12～18カ月：75～100語 18～24カ月：100～200語 	<ul style="list-style-type: none"> • 簡単な指示を出す（「車のおもちゃを太郎に渡して」など）。 • お子さんが短い文を繰り返すように促す。 • 興味をそそる音を発しながらことば遊び歌を歌う。特に動作や絵に合わせて行うと効果的。 • さまざまな物が発する音を教える。

聞き取り、発話および言葉の発達の目安

2～3歳

見込まれる言語能力	お子さんの言語発達を補助するためにできること
<ul style="list-style-type: none">• 簡単な句や文を使う。• 複数形や過去形の言葉話し始める。• 2～3語の文を使う。• 絵本を眺めて楽しむ。• 語彙が500語に増える。	<ul style="list-style-type: none">• 「グーチョキパーでなにつくろう」のようなことば遊びをする。• 「神経衰弱」などの遊びをする。• 毎日お子さんと一緒にお喋りし、絵本を読み聞かせる。• 単に「いいよ (yes)」や「だめ (no)」と返事をするのではなく、完全な文でお子さんの質問に答える。

見込まれる聞き取り能力	お子さんの聞き取り能力の発達を補助するためにできること
<ul style="list-style-type: none">• 簡単な指示に応じる。• 名前で呼ばれたときに返事をする。• 単純な物語、詩、歌を楽しむ。• 他の誰かが発した言葉を繰り返す。• 目、耳、鼻はどこかと尋ねられたときに、指差して答える。	<ul style="list-style-type: none">• お子さんに簡単な歌やことば遊び歌を教える。• お子さんが言葉を聞き取り、言葉を反復するのに役立つアプリを使う。



3～4歳



見込まれる言語能力	お子さんの言語発達を補助するためにできること
<ul style="list-style-type: none">• 自分の名前と苗字を言う。• 「～の上」、「～の下」、「～の中」などの位置を表す言葉を理解する。• 「いま」、「もうすぐ」、「あとで」を理解する。• 誰、何、どこ、なぜと尋ねる。• 「ママはリンゴを食べている」、「わたしの服は黄色」など3～5語の完全な文で話す。• 言葉や音を繰り返し発することを楽しむ。• 絵や本の簡単なストーリーを伝えることを楽しむ。• 歌うことを好み、簡単な歌は音を外さずに歌うことができる。• 赤、青、黄、緑など、よく見かける色を識別できる。	<ul style="list-style-type: none">• お子さんと毎日会話をする。 あなたが今やろうとしていることを伝え、質問をし、よく聞いてあげる。• 「～の上」、「～の下」、「～の中」などの概念を学べる簡単な遊びをする。• 詩、歌、ことば遊びなどが載っている本を読み聞かせる。• お子さんが言語の複雑性を拡大する手助けをする。子ども：「お人形さん寝んねしてる」大人：「そうね、お人形さんはベッドで眠っているわね。あなたもお人形さんと一緒に寝たい？」

見込まれる聞き取り能力	お子さんの聞き取り能力の発達を補助するためにできること
<ul style="list-style-type: none">• 言葉を変えずに馴染みのある物語を読んでもらいたがる。• 物語を読んでもらい、簡単なことば遊びを繰り返すこと楽しむ。• 毎日耳にする聞き慣れた音を認識する。	<ul style="list-style-type: none">• お子さんにお気に入りの物語を復唱するよう勧める。• お子さんに簡単なことば遊びを復唱するよう勧める。• 周囲の環境から発生する音について説明する。

参考文献：

American Speech-Language Hearing Association Website (2011).How does your child hear and talk?Retrieved from <http://www.asha.org/public/speech/development/www.babyhearing.org>

Lanza, J.R. & Flahive, L.K. (2008).LinguiSystems guide to communication milestones:2009 Edition.East Moline, IL:LinguiSystems, Inc. Retrieved from <http://www.linguisystems.com/pdf/Milestonesguide.pdf> (11-27-2011)

Oosterreich L.Understanding Children Language Development.Guidelines.The Ohio State University. <http://ohioline.osu.edu/uc/pdf/1529f.pdf>

ReSound

リサウンドは、人間の耳の機能を模倣した補聴器を開発しています。難聴や補聴器をつけていることなど忘れてしまうほど、豊かで活動的な充実した人生を送ることができます。

リサウンド・アップ スマートは、リサウンド最先端の音声処理技術を子どもの聴覚サポートに役立てるために導入しました。リサウンド・アップ スマートと独自開発のマイクユナイト™とを併せて使用することにより、あらゆる年齢層の子どもたちの発話と言語発達を最大限に伸ばせるよう願っています。

www.resound.com/up

掲載されている登録商標は、ジーエヌリサウンド・グループとその関連企業が所有・使用します。

ジーエヌリサウンドジャパン株式会社

フリーコール 0120-921-310

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-6-3
MMパークビル 8F
www.gnresound.jp/



MKD0768 UPS 13 1502A-15027K